

8 学校アクションプラン

令和5年度 富山東高等学校アクションプラン		— 1 —
重点項目	学習活動	
重点課題	公開授業を実施することで、自らの研修・研究に積極的に取り組み、教科指導力や授業力の向上に努める。	
現 状	1・2年生に新学習指導要領が導入されており、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」などの力が求められている。今後は、ICT機器等の授業への有効活用を図ることで、より効果的で生徒が意欲的に学ぶことのできる指導方法及び評価について研究する必要がある。	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の授業公開・・・年間一人1回以上の実施 ・公開授業実施後及び他の授業の参観後に相互評価・意見交換したことで、参考になったと思える回数・・・2回以上 ・ICT等を活用した授業の実施回数・・・年間一人35回以上 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の公開授業を積極的に行い、教科指導力や授業の質を高めると同時に、ICT機器等の授業への効果的な導入を研究するなど、授業の工夫・改善を図る。 	
達 成 度	<p>(授業を行っている教員数：43名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の実施回数：48回、割合：112%(=48回/43名) ・公開授業実施後及び他の授業の参観後に相互評価・意見交換したことで、参考になったと思える回数：156回、割合：181%(=156回/(43名*2回)) ・ICT等を活用した授業の実施回数：一人あたり117回(=5018回/43名) <p>公開授業の実施回数は目標を概ね達成しているが、全員が1回以上実施できるような方策を考える必要がある。</p> <p>ICTを活用した授業の年間実施回数については、一人あたりの目標は達成している。しかし、使用頻度が教員によってかなり異なっており、その原因として教科の特性や授業形式などが影響していると考えられる。</p>	
具体的な取組状況	<p>本年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこともあり、オンライン授業はほとんど行われず、通常の対面授業に戻った。しかし、生徒のタブレット端末を用いたスクリーンへの投影・グループ発表会の実施・パワーポイントでのプレゼンテーション・ネットを利用した情報検索・デジタル教科書の使用等のICT機器の利用は引き続き多くの授業で実践された。</p>	
評 価	A	<p>公開授業の実施回数は目標を達成しているが、実施形式等の見直を検討して、次年度に生かしていきたい。授業へのICT機器の活用は目標を超えたが、全ての教員が何らかの形で活用できるように更に促していきたい。</p>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業で教科指導力を高めるために、公開授業の回数および参観者の人数をもっと増やしたい。 ・教室のプロジェクターが熱に弱く、投影しているものが急に写らなくなる現象が時々起こり、授業に支障をきたした事があった。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度 富山東高等学校アクションプラン — 2 —

重点項目	学習活動（自然科学コースの指導）	
重点課題	自然科学コースの指導では校外研修や理数探究に積極的に取り組ませ、自然科学に対する興味や関心を高め、主体的に探究する態度を育成する。	
現 状	研修や実習のメニューは充実してきているが、生徒の学習の効果がより高まるよう、一つ一つの行事の内容を検証して改善する必要がある。	
達成目標	校外研修や課題研究が学習や進路希望等に活かされたと思う生徒の割合・・・80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学コースの専門科目や行事（筑波研修、課題研究の中間講評会、自然科学コース発表会など）の内容充実を図る。 ・校内の自然科学コース担当外の先生方に校内のコース行事に参加してもらう。 ・高校と大学との連携を強化する。 	
達成度	出前講義（2年・3年）……………98%（大変有意義67%、有意義31%） 生徒実習（1年）……………100%（大変有意義90%、有意義10%） 筑波研修（2年）……………100%（大変有意義93%、有意義7%） サテライトキャンパス（1年）……………96%（大変有意義58%、有意義38%） 科学技術体験講座（1年）……………100%（大変有意義72%、有意義28%）	
具体的な 取組状況	今年度は、各行事ともにコロナ禍以前と同様の形態で実施する事ができた。特に昨年度に引き続き筑波大学・富山大学・富山県立大学・富山県総合教育センターを始め多くの研究機関に協力して頂いた事で、自然科学コースの生徒達にとって貴重な経験を積む事ができたと考えている。今年度の筑波研修では、筑波大学の午後の体験実験で全員の生徒が大変有意義だったと回答しており、科学に対する興味や関心を高めるという点においては、非常に効果の高い研修であった。また筑波研修を終えた後は、参加した生徒達がそれまでより積極的に課題研究に取り組む様になった様子も見られる。質の高い研修を行う事が学習意欲の向上や進路意識の形成に繋がる事を改めて確認できた。筑波研修以外の校外研修においても生徒達の自己評価は概ね良好である。しかしより学習の効果を高める為に、今年度の各研修のアンケート結果を検証して、改善点があれば次年度の研修の企画や実施の段階で反映させたい。また現在の自然科学コースでは理科や数学の教員と生徒達が関わる機会が多くなりがちである。しかし今年度は新しい先生方に関わって頂いた研修もあり、この点は昨年度より改善できた点だと思う。生徒達が新しい学びを得る為に、今までにない研究機関との連携についても検討を進めたい。	
評 価	B	年度当初に計画していた行事を予定通り実施する事が出来たのはとても良かった。また、富山大学理学部や富山県立大学工学部の先生方と連携して研修を企画する形を継続できている点も良かった。次年度以降には、理学部や工学部以外の学部との連携事業についても検討したい。
次年度へ 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事に多くの先生方に参加してもらうための環境作りをする。 ・薬学部や情報工学部などの学部との連携についても検討する。 ・県内外から広い分野の講師の先生を招聘して、講義や講演会を実施する。 ・自然科学コースの生徒の進路実現のための体制（個別指導等）を強化する。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 富山東高等学校アクションプラン — 3 —

重点項目	学校生活（保健指導）	
重点課題	質の良い睡眠時間を適度に確保し、心身の抵抗力を高め、健康な学校生活を送ることができる生徒を育成する。	
現 状	<p>①自分のからだの健康な状態のリズムを自覚し、それを維持するための生活に主体的に取り組むことができる生徒</p> <p>②体調が悪くなったとき、その原因を考えることができる生徒</p> <p>これら①②を達成するための知識理解と意思決定・行動選択ができる生徒が本校の目指す生徒像である。</p> <p>健康生活に関する生徒アンケート（R5.1月実施）によると、「体調が良い」は約25%、「体調はふつう」は55%であった。「体調が良い」と自覚する生徒は3割弱で、多いとは言えない。学習、部活動、睡眠の各時間の確保に苦心していることが要因と思われる。感染症対策の行動制限も緩和され、活動の幅がますます広がっていく中で、心身の抵抗力を高め、健康で体調良く過ごすためには、質の良い睡眠を、適度に時間確保することがさらに求められる。</p>	
達成目標	「質の良い睡眠を6時間以上確保」、「疲れが取れ、爽やかに目覚められる」と回答する生徒・・・ともに80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒に健康生活に関するアンケートを実施（5月、10月の年2回）し、実態を把握するとともに、各自が生活を振り返る。 ・日常のさまざまな教育活動の中で、「保健だより」「相談室だより」などを通して、「健康」についての意識の向上を図る。 ・学校保健委員会で、アンケート結果をもとに、学校側、保護者の立場から問題を明確にし、健康な生活の実現のため、意見交換を行う。 	
達 成 度	「6時間以上の質の良い睡眠」については、平日の平均睡眠時間6時間以上が約50%で、「起床時に疲れがとれて爽やかだ」が約10%であった。	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日常のさまざまな活動を通して、「健康」についての意識の向上に取り組んだ。7月（全学年）、1月（1,2年）に健康生活に関するアンケートを実施し、各自の生活を振り返る機会を設けた。 ・定期的に「保健だより」「相談室だより」を作成、配布し、健康に関する知識や理解を深め、自分の健康を自主管理できる生徒の育成に努めた。 ・9月の学園祭では7月のアンケート結果と、富山県の成長戦略の柱であるウェルビーイングの向上の啓蒙を連携させた発表を行った。1年生の保健委員中心に、パワーポイントによる発表資料を作成し、全校生徒に向けて発表した。 ・10月の学校保健委員会でも、学園祭と同様の発表を保健委員が行い、それをもとに、保護者、学校医、教員が意見交換を行った。学校医からは、健康生活のあり方や今後の調査観点などについて具体的な助言があった。 	
評 価	C	達成目標が実情に合わない高い設定であったため、達成度は芳しくなかった。「睡眠」については、時間・質ともに改善が必要である。
次年度へ向けての課題	次年度は睡眠の時間・質に大きな影響を及ぼしている、情報端末との関連から生徒の健康状態を把握し、心身の健康を自己管理する意識を高めさせるような取り組みを考えていきたい。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 富山東高等学校アクションプラン — 4 —

重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	生徒の規範意識を高め、自主・自律の向上を図る。 ～「交通安全」「スマートフォンの使い方」に関する生徒の主体的な取り組み～	
現 状	昨年度までのアンケート結果から年々規範意識は高まっているが、さらに交通ルールの遵守やマナーの向上（ヘルメット着用）を促し、事故を減少、怪我の重症化を防ぐ必要がある。また、スマートフォンの利用時間が2時間を超える生徒の割合が2割強あり、健康面・学習面への影響が懸念される。	
達成目標	主体的に課題を解決し、適切に判断し行動できる生徒の育成 ・自転車事故の減少（0を目標に） ・スマートフォンの利用時間2時間未満・・・80%以上	
方 策	・生徒会（執行部・自律委員会）活動を支援しながら、生徒一人ひとりが主体的に自覚と責任をもった行動が実践できるよう指導を行う。 ・さわやか運動、校門指導、交通安全指導などを通して、規範意識やマナーの向上を図る。また、各学年・各部活動とも協力しながら、さまざまな教育活動を通して支援・指導を行う。	
達 成 度	主体的に課題を解決し、適切に判断し行動できる生徒の育成 ・自転車事故 13件発生（7件(R4)←8件(R3)←8件(R2)←16件(R元)） ・スマートフォンの利用時間2時間未満74.6% 1時間未満47.7%	
具体的な取組状況	○交通安全・通学時のマナーについて ・日本自動車連盟 富山支部講師による交通安全教室 ・生徒指導部による街頭指導（月2回程度：東富山駅～学校間） ・新ヒヤリマップの周知徹底・実践 ・終業式・学年会等の集会において交通安全・通学時マナーの呼びかけ ○生徒自律委員会の取組みについて ・交通安全指導（さわやか運動、通学路安全確保のゴミ拾い含む） ・駐輪指導 ・スマートフォンの利用について：自律委員会が中心となり、統一HRのまとめを校内に掲示し、生徒の相互共有を図り、マナーの向上にも努める。	
評 価	C	自転車事故（軽傷で済んでいるが）の発生場所と原因 ・交差点や脇道から出たところでの接触事故件数が、13件中11件（確認不足） ・自損事故も1件発生（注意緩慢・危険運転） スマートフォンの利用について ・昨年度調査開始以来初めて目標を達成したが、本年度は目標に僅かに及ばなかった。
次年度へ向けての課題	・基本的な生活習慣の確立を促し、あらゆる教育活動の場を通して、主体的に社会的マナーや人間性を向上させる態度を養う。（本年度の重点課題は継続する。） ・生徒自律委員会のさらなる活性化を支援し、自主・自律の向上を図らせる。 ・「いじめ防止」や「防災教育」、「主権者教育」も継続する。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 富山東高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	進路支援
重点課題	進路目標を達成するため、日々の学習時間を十分に確保させる。また、進路意識を高めさせ、目標実現に必要な努力を続ける姿勢を育てる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の適性、能力に対する認識が曖昧であり、適切な進路選択を主体的に行うことができない生徒がいる。 ・時間管理が不十分で学習習慣が確立されていないため、目標実現に必要な家庭学習時間が確保されておらず、学力が不足がちである。
達成目標	<p>週間学習時間の学年目標達成率。1週間の合計学習時間の学年目標は1・2学年は20時間、3年生は30時間である。</p> <p>1、2年生・・・60%以上 3年生・・・80%以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生は4・7・9・11・1月に、3年生は4・7・9・11月にそれぞれ学習時間調査を行い、担任、授業担当、部活動顧問等による面談や学年集会、ホームルーム活動等を通して、時間管理能力を養わせ、家庭学習の充実を図る。 ・学習実態調査後に、調査結果を個票で生徒個人に知らせて、家庭学習量と学習計画を見直させ、学習習慣を改善させる。 ・社会的・職業的自立に向けたキャリア教育・職業教育を推進し、生き方や在り方を考えさせる中で、学びの必要性を説き、学習意欲を喚起させる。大学訪問やオープンキャンパスを通して、目標とする大学について考えさせる。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・週間学習時間の学年目標達成率。(1・2年は1月時、3年は11月時の学習時間調査結果より算出) <p>1年生 27% 2年生 46% 3年生 70%</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度より、学習時間調査は結果入力を生徒個人のタブレットによる入力方式に変更した。調査結果の個票配付については、現在、システム開発中である。 ・2年生は、例年通り、全員で富山大学を訪問し、施設見学や学部・学科の模擬講義、本校卒業生による富大生座談会に体験・参加し、学部学科の特色、地元大学の充実と地域への貢献などを体得した。1学年は、進路座談会を予定通り開催できた。概ね良好な状況であった。 ・キャリア教育・職業教育推進のため、生徒の研修機会(看護見学、薬剤師体験、県アカデミックインターシップなど)は、必要に応じて教室掲示だけでなくGoogleClassroomで公開し、積極的な参加を呼びかけた。
評 価	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生は、<u>週間学習時間が30時間以上</u>の者は7月:52%→11月:<u>70%</u>、平均は30.2h→34.0hだった。受験生として学習意識は高く、7月時で平均値が学年目標に達した。 ・2年生は、<u>週間学習時間が20時間以上</u>の生徒割合は7月:32%→1月:<u>46%</u>に大幅アップし、平均も17.5h→19.0hに伸びた。 ・1年生は、<u>週間学習時間が20時間以上</u>の生徒割合は7月:26%→1月:<u>27%</u>、平均は15.6h→16.0hで双方とも微増だった。平日、休日の平均学習時間が1h未満である生徒数が多い結果だった。 ・目標週間学習時間を達成することが出来た生徒の割合は、各学年とも目標に達していない。しかし、結果として目標達成している生徒数は増加傾向であり、Cとする。
次年度へ向けての課題	必ずしも「学習時間が長い＝学力が高い」ではないが、学習時間の確保は学力向上に不可欠であり、1週間単位で目標学習時間に達するきちんとした生活計画とその実行、さらに習慣化を定着させていきたい。その中で学習の質についても向上させるような工夫を見出していきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度 富山東高等学校アクションプラン — 6 —

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動・学校行事・生徒会活動などを、生徒の自立性・内発性を引き出す機会と捉え、実践力のある生徒の育成や人間力の向上を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた環境（活動場所・活動時間）の中で、生徒は学習と部活動との両立を目指しながら励んでいる。 ・伝統的な本校の学校行事や生徒会主催の行事が、生徒の自主的実践力を高めている。 	
達成目標	「体育大会」や「東窓祭」、「球技大会」、「部活動」において生徒が自主的に参加した割合・・・70%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学習活動の成果を生かしつつ、豊かな人間関係の育成に努めさせ、体育的な活動、文化的な活動を創造し発信させる。 ・学校行事や部活動、生徒会主催の行事を生徒が中心となって企画運営することにより、自主的実践力やリーダー性を養う。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育大会」において自主的、積極的に参加した生徒の割合（1年生91.3%、2年生95.3%、3年生95.5%） ・「東窓祭」において自主的、積極的に参加した生徒の割合（1年生73.7%、2年生80.6%、3年生81.7%） ・「部活動」において自主的、積極的に参加した生徒の割合（1年生70.3%、2年生77.5%、3年生91.0%） 	
具体的な取組状況	<p>「体育大会」では、昨年よりも種目数を増やし競技を行った。また、テント数を増やし、団席の間隔を広くするなど配慮し、観客を入れた形で実施した。</p> <p>「東窓祭」では6年ぶりにフル規格で実施することができた。2日間の期間中に多くの観客が訪れ大盛況となった。生徒も短い準備期間ではあったが、クラス展示、ステージ発表、部活動の発表などに積極的に取り組み、学校全体で盛り上がることもできた。「部活動」では各種大会もコロナ以前の状況に戻って実施された。新築された第一体育館、ピロティなどを有効に活用することで、短い練習時間の中でも効率よく練習に取り組み、各部の目標に向かい努力する姿勢が見られた。また、部活動以外の競技で活躍する生徒が多かったことも、特筆すべき出来事であった。</p>	
評 価	A	多くの先生方の協力をいただいたが、本年度は「体育大会」で90%以上、「東窓祭」で79%、「部活動」で80%の生徒が自主的、積極的に参加できたというアンケート結果となった。
次年度へ向けての課題	<p>ようやく学校行事、部活動をコロナ以前の状態に戻すことができた。今後、どのような状況下でもより多くの生徒が達成感、満足感を得ることができるように、学校全体で協力して取り組んでいきたい。特活部としてより具体的に、様々な提案ができるように準備をしていきたい。</p>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 富山東高等学校アクションプラン — 7 —

重点項目	特別活動
重点課題	図書館利用の向上を図るとともに、読書習慣を身に付ける。
現 状	生徒は主体的な読書活動に乏しく、図書室での貸出冊数も少ないのが現状である。課題解決、進路探究、小論文など必要とする場面で、図書館内の文献や資料を探したり、活用する仕方や習慣があまり身につけておらず、図書館を積極的に活用できていない。
達成目標	生徒1人あたりの年間読書冊数・・・平均5.0冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員による本の紹介、図書館だよりの発行、読書感想文の募集、読書会、その他図書委員会活動を通して、校内の読書活動を推進する。 ・図書館オリエンテーションを通じて、主体的に図書館を利用するように指導する。また、2学年においては、図書館での小論文の資料の探し方を実践する。 ・自然科学コースの課題研究、各教科の課題、生徒の進路に役立つ書籍や資料について図書運営委員会・学年・コース・教科と連携して、それらの配置の充実に努める。 ・クラス読書会では、いろいろな分野の本を取り上げて生徒の興味と関心を引き出し、読書の深化と領域拡大を図る。 ・図書館を授業においても一層活用するために、Wi-Fi環境を整えた。今後、タブレット等を用いて、効果的な図書館の利用の推進を図る。
達 成 度	生徒1人あたりの年間読書冊数 平均5.0冊 対象：1・2年 1年 5.1冊 2年 4.9冊 昨年度 平均4.4冊 1年 5.3冊 2年 3.5冊
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ例年通りの読書推進活動を行うことができた。東窓祭では、図書委員が各自の推薦する本の大型POPを作成し、展示することで、生徒の興味と関心を引き出し、読書の深化と領域拡大を図った。 ・図書委員対象の読書会、1・2年生対象のクラス読書会も、事前指導も含め、計画通りに実施し、成功した。クラス読書会の本の選定においてなるべくいろいろなジャンルの本を選び、生徒たちの興味を引くことができた。 ・1学年を対象に4月に図書館オリエンテーションを開き、図書館に気軽に触れ合うことができるように図った。2学年対象の図書館オリエンテーションは、進路研究が小論文対策の文献の探し方について実施した。 ・各教科、自然科学コース、進路研究（小論文対策を含む）に関する書籍、生徒からの要望、生徒の興味・関心の高い本を随時購入して、図書環境の整備に努めている。
評 価	A 全体平均は目標の5冊には到達した。 2年生の読書量が、昨年からあまり減少せず、1年生も5冊以上の読書数を達成した。10冊以上読んだ者は両学年合わせて47人であった。（100冊以上2人、30冊7人） サンプル調査が50％程度なので、個人読書量は増加傾向であると評価できる。 読書会が読書を推進する契機になったと回答する生徒は88％ と高評価であった。
次年度へ向けての課題	本年度、蔵書は増加したが、次年度は生徒たちが今読みたい本をそろえることができれば、一段と図書館利用も増加する。また、図書館を小論文学習に利用する生徒も多いので、小論文対策の書籍も充実させたい。タブレット利用を推進し、図書館をデジタル・アナログ両面で充実させたい。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 富山東高等学校アクションプラン		— 8 —
重点項目	その他（P T A活動）	
重点課題	保護者との連携を図る。 同窓生との交流の推進を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のP T A活動に対する関心が薄れてきているのではと危惧している。 ・「進路に関する保護者同士の懇談会」は、P T A行事として定着してきたが、講師数はある程度確保できているので、本年も同様に進めたい。 ・同窓会総会への参加者が年々減少しており、活動が低迷ぎみである。同窓会会報の代わりにSNSの活用について検討されている。 	
達成目標	「P T A行事」での参加者の満足度・・・85%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A活動に関心を高くするために、P T A行事を充実させ、P T A各会合や研修について参加したいと感じる魅力あるものにする。 ・P T A行事実施後は参加保護者に対してアンケートを実施し、今後の取り組みに活かしていく。 ・同窓生に対して、本校の活動などを知ってもらうための新しい形の情報宣伝活動を検討していく。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A大学訪問参加者27名（結果：「大変満足」20名、「ほぼ満足」7名→100%） ・P T A全体研修会参加者126名（結果：「大変満足」48名、「ほぼ満足」57名、「やや不満」4名、「不満」0名、未提出17名→83.3%） 	
具体的な取組状況	<p>本年度は、進路に関する保護者同士の懇談会以外はP T A行事を計画通りに実施した。いずれの行事も参加者は減少していたが、無事終了した。</p> <p>「P T A総会（5月）」は、保護者の参加が175名であったが、活発な質問、意見交換が行われた。</p> <p>「第1回専門委員会（6月）」は、41名/54名の参加。</p> <p>「P T A大学訪問（6月）」は、27名の参加。</p> <p>「進路に関する保護者同士の懇談会（8月）」は中止。</p> <p>「第2回専門委員会（10月）」は、43名/54名の参加。</p> <p>「P T A全体研修会（10月）」は、本校カウンセラーの「中塩真巳先生」の「思春期は関係性を見直すチャンス」という題目で、約1時間講演を行った。126名の保護者（1年75名、2年42名、3年9名）の参加があった。</p> <p>P T A会誌「東籬」は予定通り2回（7月、12月）発行した。いずれの号にも、2人の保護者のエッセイを載せ、親の気持ち伝えることができた。</p>	
評 価	A	<p>「大変満足」、「ほぼ満足」を合わせると、92%であった。大学訪問では、「卒業生の生の声を聞くことができた。」「大学施設も見学できて良かった。」、研修会では「大変参考になった。」「聴けて良かった。」「[待つ]、[見守る]を実行しようと思った。」等の感想であった。</p>
次年度へ向けての課題	<p>P T A活動への参加機会はほぼ実施できたが、参加人数はまだ少ない。次年度は、より多くの保護者が参加できるように計画準備できればよい。</p> <p>同窓会総会の参加者を増やしたい。</p>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 富山東高等学校アクションプラン — 9 —

重点項目	その他（ICTの利用推進）	
重点課題	授業のICT化を推進する。	
現 状	生徒は主体的にタブレットを活用する仕方や習慣があまり身に付いておらず、クラスルームを利用する授業も少ない。また、Formsなどを使ったアンケートなどの集計作業の実施も、まだ少ない。	
達成目標	授業や家庭での生徒の一人一台タブレットの利用時間 …一人一日平均2時間以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の方策 授業デザイン：主体的・対話的で深い学びをICTで実現する授業の工夫 授業評価：新学習指導要領に対応した評価方法の工夫 互見授業：教務と協力し推進 ICT利用：課題の提示・回収・採点 授業解説動画などの公開 ・ 生徒へのアクション クラスルームの活用を提示 Formsなどのアプリケーションの利用推進 	
達 成 度	授業や家庭での生徒の一人一台タブレットの利用時間 一人一日平均30分程度（週あたり3時間30分）	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の方策 主体的・対話的で深い学びをICTで実現する授業の工夫が教員の中で広まったというデータが生徒のアンケートによって示された。授業中に生徒がタブレットを利用する機会は少ないものの、教師からのICT機器を利用する取り組みは多く見られた。新たに創設された図書メディア部としての取り組みの成果と評価できる。授業評価・新学習指導要領に対応した評価については、一部散見できるが、来年度以降の推進していきたい。ICT利用を利用した課題の提示・回収・採点および、授業解説動画などの公開は、今年度、飛躍的に向上した。 ・ 生徒へのアクション クラスルームの活用・Formsなどのアプリケーションの利用についても、今年度、飛躍的に推進された。しかし、教師個人の限定的な利用は否めない。また、生徒のFormsによる調査についても集計数が6割程度であり、今後の課題である。 	
評 価	A	授業や家庭での生徒の一人一台タブレットの利用時間一人一日平均2時間以上という当初の達成目標は、設定段階での精査が不十分で、到底無理な目標であった。データでは、30分程度という結果であった。生徒の家庭学習を鑑みるに、 1日：30分程度 という結果は、十分良い数値であると考えられる。来年度のアクションプランを再考しなければならないが、今年度としては、評価出来ると考える。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み状況であるように、教師によって利用の差があることは否めない。生徒のFormsによる調査についても集計数が十分でなく今後の課題である。授業評価・新学習指導要領に対応した評価については、来年度以降の推進していきたい。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)